

通し番号	4652
------	------

分類番号	25-34-12-05
------	-------------

ナシのジョイント仕立て専用苗木のもうひと伸びにジベレリンペースト剤が利用できます
[要約]ニホンナシ苗木に萌芽期から新梢伸長期に新梢の頂芽基部にジベレリンペースト剤を100mg/1枝、3回処理すると、新梢伸長が促進されジョイント仕立て専用苗木の養成が容易になる。
神奈川県農業技術センター・生産技術部・果樹花き研究課 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ナシ樹体ジョイント仕立ては、改植を推進する新たな省力的栽培法として全国ナシ産地への導入が始まっており、その普及推進には新梢が2m以上伸長した苗木の安定的供給が重要である。そこで、ジベレリンペースト剤の苗木への新梢伸長促進処理の登録拡大に向けて、使用法について検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 主要品種‘幸水’において新梢伸長を促す芽の基部にジベレリンペースト剤100mgを1回(5/14)、3回(5/14、6/14、7/16)それぞれ塗布すると、新梢が無処理に対して長くなる。特に7月の3回目処理後の新梢伸長が促進される(図1)。
- 2 落葉後に主幹基部径、新梢長、新梢節数、新梢基部径及び新梢先端径を比較すると、新梢長、新梢節数に有意な差が認められ、3回処理は無処理より新梢節数が10節程度多くなり、新梢長が50cm長くなる(表1)。なお、葉害は各処理とも認められない。
- 3 新品種‘香麗’で5/25、6/24、7/19に3回処理した苗は、新梢長、新梢節数に有意な差が認められ、節数が12~15節増え、新梢長が40~50cm長くなり、定植時の目標株間を1.5mとした場合、必要な長さのジョイント仕立て専用苗を育成できる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本剤によるニホンナシ苗木への新梢伸長促進を目的とした処理については、本試験等の結果により、使用量:100mg/1枝、使用時期:萌芽期~新梢伸長期、本剤の使用回数:3回以内、使用方法:頂芽基部塗布または新梢基部塗布、ジベレリンを含む農薬の総使用回数:3回以内とし、平成26年1月29日付で適用拡大登録されている。
- 2 ジベレリンペースト剤塗布する際、薬剤が葉や芽に付着すると葉害(やけ症状)の原因となるので、葉や芽に付着しないように注意して塗布する。
- 3 ジベレリンペースト剤の塗布処理や摘心等で絶えず先端部の伸長を促すため、夏期に発生するチャノキイロアザミウマ、ニセナシサビダニ、アブラムシ等の害虫防除が必須である。
- 4 本試験は‘幸水’及び‘香麗’における結果であるが、他県の植調試験では‘あきづき’及び‘南水’でも効果が認められている。

[具体的データ]

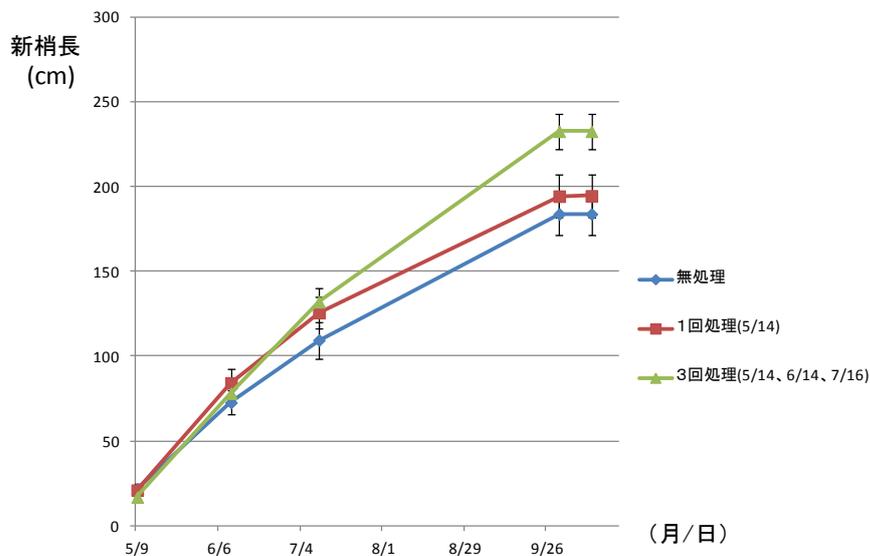


図1 ナシ‘幸水’苗木へのジベレリンペースト処理回数別の新梢伸長の推移(2013年)

表1 ジベレリンペースト処理がナシ‘幸水’苗木の新梢生育に及ぼす影響(2013年)

処理区	主幹長 (cm)	主幹基部径 (mm)	新梢長 (cm)	新梢節数	新梢基部径 (mm)	新梢先端径 (mm)
1回処理	57.0	17.9	192ab	43.2 b	10.2	6.0
3回処理	56.6	17.0	232 a	51.1 a	10.2	5.4
無処理	57.3	18.1	182 b	39.8 b	9.4	5.7
有意性	n.s	n.s	*	**	n.s	n.s

Z: 有意性はTukey 検定による (*は5%水準、**は1%水準で異なる英文字間に有意差あり)

表2 ジベレリンペースト処理がナシ‘香麗’苗木の新梢生育に及ぼす影響(2013年)

処理区	主幹長 (cm)	主幹径 (mm)	前年枝長 (cm)	前年枝径 (mm)	新梢長 (cm)	新梢節数	新梢径 (mm)
GA3回 ^z	107	26.3	15.5	16.5	198	48.4	10.9
無処理	115	25.3	12.0	17.9	151	36.2	11.6
有意性 ^y	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	**	**	n.s.

Z: 5/25、6/24、7/19処理

Y: 有意性はt検定による (*は5%水準、**は1%水準で有意差あり)

- [資料名] 平成21～25年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書(果樹)
- [研究課題名] 樹体ジョイントによる県内主要果樹の省力、低コスト栽培技術の開発
イ GAペースト処理によるジョイント専用2年生苗の育成
- [研究期間] 平成21～25年度
- [研究者担当名] 柴田健一郎、曾根田友暁、小泉和明、北見丘